

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を共有し、かみやまだ敬老園の理念をもって取り組んでいる。 かみやまだ敬老園の理念は全職員により作られ、毎朝の朝礼時に唱和し実践につなげている。	ホームの理念は職員全員でつくり上げたもので居間にも掲示している。朝礼時に唱和し、日々姿勢を新にし支援に当たっている。理念にそぐわない行為については全員のミーティングで注意を喚起している。理念とは別に入居者と共に行動するための合言葉を設け、お互いの指針としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や近隣の児童館、保育園との交流、地元ボランティアの積極的な受け入れを通し地域とつながりながら暮らせるよう配慮している。また地域に「かみやまだ敬老園便り」を回覧していただき情報発信している。	ホームとして自治会費を納め自治会会議にも管理者が出席し地域の清掃活動や区で主催する防災訓練にも参加している。ホームには押し花や腹話術、紙芝居、老人クラブの踊りなどのボランティアが訪れており、入居者の楽しみの一つとなっている。中学生のサマーチャレンジ、専門学校生の実習なども受け入れている。毎月発行する「かみやまだ敬老園便り」を近隣34地区に配布し回覧板で廻しホームへの理解を深めていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	千曲市から受託し、認知症の「介護予防教室」を開催している。地域の方々が認知症を理解し、関わりかたを学ぶことにより認知症の方を地域で支えるまちづくりにつなげることが目的である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し八割以上出席していただいている。事業所の活動報告をし、評価と意見交換の場とさせていただいている。 地元の行事、ボランティアの紹介、緊急時の避難先等のご意見をいただきサービス向上に活かしている。	2ヶ月毎に開催している。入居者代表、家族代表、自治会長、常会長、民生児童委員、消防団分団長、地域包括支援センター職員などが参加し、ホームの状況や活動報告の後、意見交換し、助言や提案等を頂きサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき活動報告している。また千曲市の介護相談員が毎月来園し市へ状況を報告してくださっている。	千曲市の施設部会が年6回奇数月に開催されており、そのうち一回は研修を兼ねて行われておりホームからも参加している。市から受託し、認知症の「介護予防教室」を年4回行っている。市の介護相談員2名が毎月ホームを訪れ、家族も参加するお花見や納涼祭などにも参加していただき、入居者の良き理解者となっていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が開催する研修や勉強会に出席し、身体拘束の対象となる行為について理解している。身体拘束と思われるケアについては全職員で話し合いを重ね身体拘束のないケアに努めている。	法人本部に身体拘束委員会がありホームからも職員が出席し研修や勉強会をホームに持ち帰り伝達研修や報告をしている。身体拘束をしないケアについては全職員が理解しており身体拘束のない支援に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会が設置されており委員会が開催する研修や勉強会に出席している。事業所に虐待を見過ごすことなく、話し合うことが出来る雰囲気がある。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業及び成年後見制度について資料をファイルし、読み合わせを行なっている。入居者に必要を感じた場合職員間で話し合い関係者に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面を読みながら充分説明し、質問を受けながら契約締結している。解約時も入居者及び御家族の不安がないように質問に答え理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者代表、家族代表が出席している。毎月来園される市の介護相談員の方に入居者がお話しされたことを真摯に受け止め希望に沿うようにしている。また年二回家族会を開催しご意見ご希望をお伺いし運営に反映させている。	家族が来園した際には意見等を聞くように心がけている。家族会が年2回開催される他、お花見や納涼祭、市の夏祭り見物などの家族参加行事もあり、それらの際にも意見・要望等をお聞きし運営に反映させている。毎月発行する「かみやまだ敬老園便り」を家族の元に届けており、スナップ写真も豊富で家族とのコミュニケーションを図るのに役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の会議、毎日の朝礼やミーティングにて職員の意見や提案を聞き反映させている。事業所には職員が意見や提案を発言しやすい風土がある。管理者は管理者意義を通し代表者に報告、相談し運営に反映できるよう努めている。	職員の定例の会議が毎月第一木曜日夜に開かれているほか、管理者は常に職員の意見や提案を聞いたり話し合う機会を持っている。法人全体として人事考課制度の準備段階にあり、各職員が自ら年間目標を立て期初に管理者と話し合い、ふり返りの場として期末にも面談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い向上心をもって働けるよう職場環境づくりに努めている。 人事考課制度導入を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人により福祉に従事するあらゆる職員が学ぶべき研修「職員基本研修」が開催され受講が義務付けられている。「職員基本研修」は経験年数、役職に応じ段階的に学べるよう構成されており個々人にあった受講が出来る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月に一度開催される千曲市施設部会に出席し情報交換、資質向上につなげている。また法人内ではGH部会もしくは計画作成担当会議が毎月開催され、事業所間での交換研修が毎月実施されており情報会館、交流とサービスの質の向上に取り組んでいる。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始以前に本人と面談を実施、困っていること不安なこと要望についてお聴きし、職員間で情報共有することにより安心して生活できるよう努めている。可能であればデイサービスの利用で慣れていただいてから入居していただくこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や契約の段階でご家族のお気持ちや要望についてお聴きし、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と御家族のお話を充分にお聴きし必要としているサービスについて話し合い、必要に応じて他のサービスの利用を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の風習や行事を教えていただいたり、調理の知識を教えていただきながら一緒に調理したり家事をする暮らしを共にする関係がある。 人生の先輩に対する尊厳を持ったかわりを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来園の機会を増やしていただけるよう働きかけ、御家族にも本人の状況やお気持ちを理解していただけるようにする。生活の様子、変化について御家族に連絡し対応について相談することによりご家族に身近にいていただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人と会ったり、美容院など行きつけの場所に出かけることを支援している。	自宅の近所の方や入居時にお世話になった民生委員、昔のお仲間、知人などが訪れ一緒に出掛けたり、時には電話をかけてくれたりして良好な関係を継続している。馴染みの食堂に職員と一緒に出掛ける方もおり、オープンな環境の中で途切れない支援を行っている。若干名ではあるがお盆や正月に帰省する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性、関わりを把握し、座席の配置などに配慮し利用者同士が交流を持てるように配慮している。孤立しがちな利用者は職員が間に入り皆の輪の中に入れてようようにしている。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望や事情により住まい替えが必要になった時には、移動先の関係者に細かく情報提供し本人がスムーズに新しい生活に入れるよう援助している。退去後御家族と連絡を取る際は御本人の状況をお伺いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接伺うと共に、言葉で表現できない方また表現できる方であっても、その時々表情や仕草、つぶやきを大事にして本人本位の生活が出来るように検討している。	殆どの入居者が意思表示出来るので思いや希望は伝わってくる。自分の思いを表出できない方も表情や会話、本人の様子から意向を把握し支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールで情報収集したり、入居時の聞き取りのほかに、折にふれ御家族、御本人との会話を持つ中で、生活歴、暮らし方を知り毎日の生活に取り入れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態や様子を記録する際には、発した言葉や生き生きとした表情が見られたかなども記録に残し皆で把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼時や事業所の会議を利用しモニタリングしている。また御家族の面会時や必要な時には電話で、必要なサービスを検討し介護計画を立てている。	本人や家族の意向を確認し、ミーティングや会議の際に居室担当が中心になりモニタリングをしている。3ヶ月毎に見直しも行っており、必要な場合には医師などの意見を加味し、現状にあった介護計画を立て家族にも説明し承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には日々の様子、ケアの実践・結果、気づき、つぶやき、表情などを記入する。情報は朝礼や夕方の申し送りにて確認、職員間で共有できるようにし毎日生活や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリに通う入居者の準備送り出し、体調不良やターミナル期の御家族が安心して付き添えるよう場所や食事の提供をしている。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関わりのあった民生委員の方に後見人になっていただいたり、傾聴や趣味活動の継続など地域のボランティアを活用している。また年二回の消防訓練には地元の消防署や消防団の方に参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族の希望を大切に主治医を決定する。主治医との連携をとりながら健康維持に努め、ご家族へ報告相談しながら早めの医療対応をしている。	かかりつけ医は本人家族の希望する医師にお願いしている。協力医療機関の医師が月1回往診に来ており、通院については家族の付き添いを基本としている。職員の中に看護師がいるので緊急の際には関係機関に連絡をとり対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が配置されており、介護職と看護職は常に相談し、情報交換することにより利用者の健康を維持し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院へ情報提供をし入居者が安心して入院治療できるようにしている。また退院時には病院から情報をいただきスムーズにグループホームでの受け入れが出来るよう体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族と緊急時や終末期について話し合い意向を確認している。また看取り介護に関する指針を説明し同意をいただいている。そして急変時や重度化したときには、主治医と連携をとって御家族に説明を行い、御家族の希望に沿って協力していただきながらチームで支援している。	今年もホームでの見送りをしている。入居者の家族が毎日交替で1ヶ月間訪れ付き添って見送られた。家族は終末期の看取りについての説明を受け同意もしている。本人はかかりつけ医の受診で旅立たれたが常に家族と話し合いを持ち、医療と介護の連携のもとに対応することができた。看取りを行った経験が職員の自信となり、終末期ケアの向上に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は心肺蘇生、AED使用の救急救命講習を年一回必ず受講し急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回昼間、夜間を想定した避難訓練を消防署員及び地元の消防団員立会の下実施し、地域の方にも参加していただいている。	年2回昼・夜を想定し、消防署や地区の消防団の参加の下避難訓練を行っている。運営推進会議の委員や近所の方にも参加していただいている。昨年スプリンクラーが設置され、防火対策も強化された。法人内に防災担当参加があり、東日本災害の教訓を基に災害にあった場合の避難先を職員とともに検討中である。	

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いや気持ちを尊重した言葉かけやケアを心掛けている。	法人のサービス向上委員会にホームからも職員が出席し接遇研修を受け持ち共有している。法人としてマニュアルも整備されており、入居者への言葉かけも丁寧に高齢者に敬意をはらったものであった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう働きかけ、押し付けにならないように入居者の意思確認を大切にしている。意思表示が困難な方は表情、仕草などから読み取る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間など一人ひとりの希望や体調、ペースに合った過ごし方が出来るように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の希望により美容院に出かける方もあるが、それ以外の方は月一回理美容の方に来園していただき、希望に沿って整髪していただいている。服装は御本人の意思を尊重するよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は調理や味見、盛り付け、片付けなど出来ることを分担して、体調や意思を確認しながら関わっていただいている。好みに応じて代替品を提供したり、行事食に希望の献立を取り入れたりしている。	食事については殆どの入居者が自立しており、一部介助の方と食事形態がきざみ食の方が若干名いる。入居者で手伝いのできる方は盛り付けなどをしている。食材については法人本部から届く献立表をアレンジしホームで発注している。今年は入居者が作った畑のキュウリやホウレンソウが食卓に上り、その話題で食事時も盛り上がった。誕生日会や行事食には入居者の好みのメニューを提供しており、馴染みの店に出掛ける入居者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士による栄養バランスの取れた献立が基本である。食事や水分摂取量が不足しがちな方は摂取量を記録し、好みの食べ物、食べ易い食品、食べ易い形態の食事水分、時には栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で出来る方には声掛けや見守りをし、必要な方には義歯をはずし介助するなど一人ひとりに合わせた口腔ケアをしている。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄に努めている。自力でトイレに行かれる方はさりげなく尿失禁していないか確認しパットの交換をしている。失禁がありながら、なかなかトイレに行かれない方には定時で声掛けをし排泄の失敗を減らすよう配慮している。	自立している方が若干名、一部介助を必要とする方が約半数、全介助の方も若干名いる。排泄チェック表を確認しながらパターンを把握し、様子を見ながら声がけし、トイレでの排泄支援を行っている。意識していても間に合わないこともあり、安心のためにパットを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を記入し便秘をしないよう注意している。一人ひとりの排便間隔を把握し、下剤をすぐ使うのではなく自然排便できるように支援している。水分不足にならないよう気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	清潔が保てるよう配慮し入浴の声掛けをしているが、体調や希望に合わせて気持ちよく入浴していただけるよう配慮している。	温泉利用の広めの浴槽でユツタリ浸りながら入浴している。各入居者の状態を把握し、入浴中は見守りから介助まで一人ひとりに合わせ、きめ細かい対応をしている。入浴嫌いな方には声がけを工夫しており、少なくとも週2回は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れが見られる方は午前午後関係なく休んでいただいている。居室ではなく座敷に布団を敷いて午睡していただいたり、危険がある場合はベッドをはずすなど状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用は薬局の「薬の内容」で確認したり看護師から説明を受けている。入居者の疾病について把握し、日々の変化を記録、報告し医療との連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を尊重し、自分の仕事として毎日されていることは継続し満足感や達成感を得られるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅や買い物に行きたいなどの希望はご家族と相談し実行できるように支援している。職員対応にて買い物や外食に出かけることもある。	歩ける入居者は近くに散歩に出掛けている。体力のない方は途中まで車で送ったり、迎えに出たりして外出を楽しめるように工夫している。お花見や食事に外出することもあり、一人ひとりの希望に沿い家族の協力を得ながら買い物にも出掛けている。	

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことを希望している方は、御家族と相談しご本人がお金を所持し使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があるときは、職員が電話をし御本人に取りついでお話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの隣に台所があり、食事準備の音、匂いなど家庭的な雰囲気の中で生活していただいている。季節感のある花や植物を飾っている。	大きな住宅を改修してあるので共有空間は広い。廊下には本棚が置かれ椅子もある。南の縁側からは座敷まで陽が差し込み当日も日向ぼっこを楽しまれていた。脱衣所やお風呂も二三人が入れるほど余裕がある。デイサービス利用の方も一緒に過ごせる空間があり、毎月の職員会議も広い居間で夜行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席はトラブルのないよう配慮し決まっているものの、建物内にはソファーやイスが並べて配置されており、一人になれたり気の合った方同士一緒にゆっくり過ごせるような空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族にご協力いただき、ご本人が使いなれた日用品や家具をお使いいただき安心して過ごせるよう配慮している。	馴染みの筆筒や使い慣れた文机が置かれ、壁に孫の写真などが飾られている居室が見られた。民家改修型で居室の広さはそれぞれ違うが、使い慣れた家具やテレビ、ベットなどを置いても広く感じられる。それぞれの思いが伝わる居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室はわかりやすく表示し、危険なもの unnecessaryなものは入居者の導線に置かないよう心がけている。入居者の状態により安全に過ごせるように配慮し、御家族と連絡を取りながら安全で自立できる環境づくりをしている。		